

三年前廣井勇先生と記者との一問一答録

創刊より將に第五十號を編輯して故廣井勇先生を偲ぶ

氣概ばかりは汪んでも足弱々と歩み出した工事畫報の生いたちを心に掛けて下さつた廣井勇先生、其の廣井先生在生中の記者との問答、次は三年前の舊稿で未發表の中より。

〔三年前の舊稿の中より〕

六月十一日久しぶりに小閑を得て廣井勇先生を牛込の自邸に訪ねた。

靜かに社會を觀てゐるるゝ博士に對して記者は先づ次の御問ねをした。

○

現在日本の技術家にして何んな人を推奨されますか。

博士曰く

技術家は澤山にあるが、誰が偉いとか、誰を推奨したいと言ふ程の人はない、元來日本は土地が狭少で金がないから大工事が出来ない、随つて有爲な人物があつても手腕を發揮する機會がない。

○

記者問ふて曰く

日本にはフーヴァー卿の如き人物は出ないものでしょうか、(大學教授として多くの學生に人格的實力の教化に努められた博士に對する質問としては適當な質問ではあると思つた。

博士曰く

出ない事はない、日本にもあれ丈けの人物は何處かにあるのだが、社會組織を云ふか國狀を云ふか兎に角アメリカと異つた、或人物をして大ならしめ得ない様な處があるから、現はれないと思はれる。何しろ日本は國が小さい、少し仕事かふへるゝ適當な(此の適當なを云ふ言葉に博士は力をこめられた様に思ふ)人が足りない。少し仕事か減るゝ人のやり場所がないを云ふ状態である。日本人までも決して技術的に米人に劣つては居ない、唯金がない爲に仕事か

出来ないのみである。

○

記者問ふて曰く

技術的に劣つてゐなくても實地の現場工事は非常に劣つてゐる様です、此點は如何御考ですか。

博士曰く

學校を出た時には皆な勇氣を有つてやつてゐるが次第に現場に負けて了ふ。

○

記者問ふて曰く

日本の請負工事は如何ですか。

博士曰く

日本の請負人はウソを言ふ事のみ上手で仕事は上達しない。

○

記者問ふて曰く

先生の銃獵趣味は如何ですか。

博士曰く

銃獵には趣味を有つてをたが近來止めた、生物を殺すを云ふ事が何だか不憫である、年の故かも知れない。趣味としては少しばかりの園藝のみである。

座談後に博士ニコタタとして曰く

工事畫報も三號雜誌で終るのではないかと思つた。

× × ×

噫々今や廣井勇先生なし、されき先生の靈は天上にあつて我等の此の覺束なき事業を莞爾として觀てゐられるのであらう。